

各 位

2015年6月15日
株式会社リットーミュージック

Mr.Children が『サウンド&レコーディング・マガジン』表紙に登場
桜井和寿ロング・インタビュー掲載！



インプレスグループで音楽関連の出版事業を手掛ける株式会社リットーミュージック（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：古森優）は、2015年6月25日、Mr.Children が表紙を飾る音楽クリエイターのための専門誌『サウンド&レコーディング・マガジン2015年8月号』を発売します。

Mr.Children が2年7カ月ぶりに完成させた新作『REFLECTION』は、全14曲のCD盤 {Drip} と、全23曲のUSBアルバム {Naked} の2形態でリリースされ、{Naked} には、24ビット/96kHzのハイレゾ音源を同梱しています。今回『サウンド&レコーディング・マガジン』では、バンドのフロントマン桜井和寿にロング・インタビューを敢行。長い制作期間を経て、そしてさまざまな新しい試みを持って発表されたアルバムの全容について大いに語ってもらっています。また、桜井和寿のインタビューのほか、レコーディングでメインに使われたスタジオ、OORONG TOKYO STUDIO のレポート、桜井和寿とエンジニア今井邦彦との対談、アルバム楽曲分析、さらには『Mr.children TOUR 2015 REFLECTION』のコンサート・レポートまで、彼らの最新プロダクションを多角的に紹介。音楽制作に携わるクリエイターに向けてレコーディング機器やシンセサイザー、楽曲制作ソフトなどの情報を提供している専門誌ならではの視点で、Mr.Children が到達した新境地に迫ります。

『サウンド&レコーディング・マガジン 2015年8月号』

表紙：Mr.Children

発売：2015年6月25日

発行：リットーミュージック

公式サイト <http://www.rittor-music.co.jp/magazine/sr/15121007.html>

プリント版

定価：900円（本体833円+税）

仕様：B5変型判／232ページ

Apple iPad版／Apple iPhone版

価格：[単号] 840円、[1ヶ月自動更新の定期購読] 600円

対応OS：iOS5以降

iTunes URL <https://itunes.apple.com/jp/app/sound-recording-magazine/id686362872?mt=8>

※8月24日に8月号の情報に切り替わります

《CONTENTS》

■表紙／巻頭

Mr.Children

96kHzで捉えた比類無きバンド・サウンド

新作『REFLECTION』を多角的に分析！

○桜井和寿ロング・インタビュー

○桜井和寿による『REFLECTION {Naked}』全曲解説

○OORONG TOKYO STUDIO レポート

○桜井×エンジニア今井邦彦氏対談

○『REFLECTION』楽曲解説

○『Mr.children TOUR 2015 REFLECTION』コンサートPAレポート

■特集

プロご用達 DAW ソフトの無償版

Pro Tools | First で始めるトラック制作

○How To Start Pro Tools | First

○Xpand!2 で MIDI プログラミング

○サンプル編集でビートを作ってみよう

○録音した素材も自由自在にエディット

○フル・オートメーションを利用したミックス

○アプリ内購入で Pro Tools | First をパワー・アップ

○Pro Tools 12 へのステップ・アップ・ガイド

■特別企画

アルカなど最先端アーティストの“空間”をシミュレート

「今っぽいリバーブの使い方」

- アルカの幽玄なシンセ空間はリバーブのフリーズで作る！
 - FKA ツイッグスのうねるリズムは残響にサイド・チェイン・コンプ！
 - リバーブとディレイの合わせ技！ ピュリティ・リングのポップなボーカル
 - クリエイター・スピリット爆発！ ザ・ウィークエンドの歌処理
- and more



Interview Mr.Children

からしませんが、自分の中で整理がついてすっきりした部分があり、それがきっかけで新しいアルバムが生まれたのかもしれないですね。

◆ 前作にして話題も話題も絶えた自分？
◆ 予想だになかったものが生まれたりする。

◆ 今今は、制作現場の前半は小林さん、プロデューサーとしてかわかり、途中からバンドのセルフ・プロデュースで進めていたそうですね、どんな変化がありましたか？

藤野 今の自分がちょっとおもしろい(笑)、今まではプロデューサーである小林さんが、レコーディング・スタジオでのリーダーでした。だから、コミュニケーションもまず僕がという感覚が戻りたい小林さんに促されて、メンバーとのやり取りも小林さんがすることが多かったんです。もちろんメンバー間で話し合ったつもりですが、当たり前で思えるという感じ。で今は、そのリーダーの役割と違うか、それそれ自分自身で持っていることも、言葉でもバンドでもおぼつかない。だから小林さんがいよいよスラム・ドゥに物事は戻っていきないう、距離だってかかるけど、ただ寄り添って無難な距離を過ごした自分だけ、予想だになかったものが生まれたりする喜びもあって、逆に言えば小林さんがいよいよスラム・ドゥに帰ると、今は何もなかったように感じています(笑)。

◆ 先生、そのセルフ・プロデュースが自分にも反映されているように感じました。

藤野 それは、バンドとして、Mr.Childrenの4人の表情が分かるようなものというのを意識していたし、それを藤野さんがMr.Childrenのファンとしてそういう言葉を求めていたんです。だからできる感じがシンプルに、結果なくMr.Childrenの両性愛とか幸福がちゃん見えてくるとか面白いと思ってやっていました。

◆ 前作・アルバムとして振り返って、特に今回のレコーディングで意識したことありますか？

藤野 僕は、歌よりも音、音のコントロールでできるようなことになっていくと思うんです。でも最初、一曲を通してずっとコントロールされた声で歌っていると、聴き手がなくなっていくんじゃないかと思って……。マッコーでも、

ドリブルするときにスピードも一定としてほしいスピードで歌くと、その表現が維持しづらい(笑)。歌い手からすると、その気持ちいいトップ・スピードのままずっと歌えないからって思っちゃってます。だから歌い手も、全部自分が気持ちよく歌っている状態で歌えたらいいんじゃないかと思って……。藤野の音の中や空間感について話さずにはいられない。そういうときは、藤野の目線がアルバムとかを眺めていると、やっぱり藤野がやってトップ・スピードで歌っている感じがしないよと僕が思ったりもするんです。その藤野にD.J.としたら、リスナーはやらせちゃうんじゃないかなと思って。だから今回は、僕とあまり話さずことごと、自分のイメージしたまま歌うことをみんなに委譲せず、僕に集中してただ歌を歌うことに集中しました。藤野が歌い手も生き生きと歌いながら、逆に聴き手することもあるんですよ。その判断ももう一回リスナーとしての自分が持っているのが大事だと思っています。そんな感じですね。

◆ マイクのチェックは戻ってはいませんか？

藤野 マイクは僕が持っているMIDMANN M47 TUBEをメインに、スタジオの4台を借りたり、V.OLET DESIGN The Aneby of Standardも使っています。マイクによって音が大きくなり過ぎたり、ミッドが抜け過ぎたり特徴があるので、オケによって変えますね。同じマイクでもマイクと自分の位置によってコンプレッションのかわり方が変わってくるから、距離感もすごく大事ですね。しかも僕は最近と音がかわいたマイクなので(笑)、アタックも悪い、そういう感じ。ある意味ちょっと遅く、どうも納得がいかない場合は毎日違うマイクで録り直したりもしました。

◆ 1曲につき何回マイクをいじりますか？

藤野 多いときは半日くらい、いつもでもやっていきます(笑)。15回とかもあるし、でもそれだけやったものは大抵また次の日とか別の日にもう一回やり直す。その日の気分やコンディションにもよるし、それと距離感も変わってくるから、色々な変更のなか、遠慮でも変わって来ますからね。

◆ 藤野さんのタイミングでできるのですか？

藤野 Mr.Childrenと僕がアレンジがまだ後です。サウンドに呼ばれて距離感が変わることが多いので、

【株式会社リットーミュージック】 <http://www.rittor-music.co.jp/>
 □所在地: 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング □設立: 1978年4月10日 □資本金: 1億6,900万円 □決算期: 3月31日 □従業員数: 93名(2014年3月31日現在) □代表取締役: 古森優 □事業内容: 音楽関連出版事業

【インプレスグループ】 <http://www.impressholdings.com/>
 株式会社インプレスホールディングス(本社: 東京都千代田区、代表取締役: 関本彰大、証券コード: 東証1部9479)を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「モバイルサービス」を主要テーマに専門性の高いコンテンツ+サービスを提供するメディア事業を展開しています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社リットーミュージック 営業統轄部出版営業部 宣伝広報 市原
 Tel: 03-6837-4728/ E-mail: pr@rittor-music.co.jp